新連載◎孫育の知恵―祖父母が子どもに残すひとひらの言葉と大きな力　2

孫育シリーズ　太陽のような祖父母の存在

『子どもは「愛された」という確信を求めて生きる。それが得られないとき、人は「愛されるに値しない自分」を作り出してでも、愛の秩序を守ろうとする。』　―ジョン・ボウルビィ―

「急がない愛」が子どもの心を救う

孫育とは、祖父母が孫の成長に関わること。それは何かを教え込むことでも、正すことでもありません。急がせず、変えようとせず、太陽のように、ただそこに在り続けることです。

■中川翔子さん―「逃げ場」を用意してくれた祖母

タレント・歌手として活躍する中川翔子さんは、12歳から15歳までの間、壮絶ないじめを経験しました。一人で絵を描いたり、アニメに熱中したりする趣味を持っていた彼女は、クラスメイトから「キモい」とレッテルを貼られ、仲間外れにされました。いわゆる「スクールカースト」の最下層に位置づけられていたのです。

いじめは次第にエスカレートし、学校では嘔吐するようになり、「ゲロマシーン」という残酷なあだ名で呼ばれることもありました。やがて、学校に通うことができなくなります。

そんな時期に、祖母がそっと用意してくれたのが、一台のパソコンでした。中川さんは後に、「もしあの時、ネットという逃げ場がなかったら、あの時期を乗り越えられなかったと思う」と語っています。

学校の中では否定され、バカにされていた「オタク」趣味が、学校の外では、世界中の何百万人もの人々に愛され、称賛されている。その事実を、彼女はインターネットを通して知りました。そして「自分はここに存在していいのだ」という感覚を取り戻しました。

この発見は、彼女の視点を大きく変え、初期のブログ「しょこたん☆ぶろぐ」は、同じ趣味を持つ人たちとのつながりを生み、やがて彼女の活動の場を広げていきます。

その後、中川さんは『死ぬんじゃねーぞ!!　いじめられている君はゼッタイ悪くない』を出版し、いじめに苦しむ子どもたちに向けて、「あなたは悪くない」「あなたの味方はいる」というメッセージを届けるようになりました。

祖母は、「学校に行きなさい」とも、「いじめに立ち向かいなさい」とも言いませんでした。ただ、孫が安心して息をつける場所を、そっと用意してくれただけだったのです。

■正岡子規―「名前」を変えてくれた祖父

明治時代の俳人・正岡子規も、幼少期にいじめを経験していました。内気で泣いてばかりいた子規を支えたのが祖父・大原観山でした。

祖父は、孫の名前を変えるという大きな選択をします。単なる改名ではなく、それは「ここから、また始めていい」という、言葉を超えた励ましだったのかもしれません。子規はのちに、近代俳句の礎を築く存在となります。

■矢沢永吉さん―「面白いところに行け」と言った祖母

日本のロック界を代表するレジェンド、矢沢永吉さんも、子ども時代、貧しさを理由に「お前の家は貧乏だからケーキなんか買えないだろう」と言われ、ケーキを投げつけられた経験をしています。

やり場のない怒りを抱え、世の中が「つまらない」とこぼした幼い彼に、祖母はこう言いました。

「面白いところに行け」。

その一言が、環境や他人のせいで人生を諦めるのでなく、自分の意志で道を探していいという自由を、彼に与えました。祖母の力強い言葉を胸に、やがて矢沢さんは音楽という「面白いところ」と出会い、自分の人生を切り拓いていきます。

■三人の祖父母に共通するもの

三人の祖父母に共通しているのは、急いで解決しようとしなかったこと、子どもの存在そのものを肯定していたこと、そして、太陽のように、ただそこにあったことです。

太陽は、光とぬくもりを注ぎながら、地球の流れを急がせることはありません。祖父母たちもまた、孫を変えようとするのではなく、その子の時間が自然に動き出すのを待っていたのだと思います。

■なぜ「親」ではなく「祖父母」なのか

親には、子どもを育てる責任があります。その分、将来を思うほど、焦りが生まれることもあります。

一方、祖父母は、少し離れた立場から関わることができます。長い人生経験のなかで、困難は時間とともに形を変えていくことを知っている。成績や行動に左右されず、存在そのものを受け止めることができる。その安心感が、傷ついた子どもの心を静かに支えます。

■おわりに

いじめというつらい経験をしながらも、三人はそれぞれの人生を歩んでいきました。そのそばには、太陽のような祖父母の存在がありました。急がせず、変えようとせず、ただ温かく見守る―「急がない愛」。たとえ今は気づけなくても、いつか振り返ったとき、あの何気ない時間が、自分自身を支えてくれていた。そう感じる日がきっと来るのではないでしょうか。

※引用元・参考文献※

中川翔子『死ぬんじゃねーぞ!! いじめられている君はゼッタイ悪くない』（文藝春秋）

正岡子規『子規全集第13巻（俳論俳話下）』（講談社）

矢沢永吉ほか『仕事力紅版』（朝日新聞出版）

ジョン・ボウルビィ（作田勉訳）『母子相互作用の理論（1）愛着行動』（岩崎学術出版社）ほか参照

大坪可奈（おおつぼかな）

幼児教室
コペル創業者

プロフィール

幼児教室「コペル」創業者。30年間、延べ3,000人以上の親子と向き合い、お子さまのIQ・EQ・SQを育む“全脳教育”を実践。「AI時代に夢を叶える力を伸ばす」をテーマに、国内外で講演を行っている。近年は、祖父母の「無条件の愛と、深い人生経験から生まれるまなざしと行動」が子どもの心と成長を支える「孫育」の力を伝えている。